

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

1. 研究課題名	我が国における前置癒着胎盤の周産期管理に関する調査			
2. 対象患者	前置癒着胎盤患者			
3. 対象となる期間	2016年11月～2017年12月			
4. 実施診療科等	産婦人科			
5. 研究責任者	氏名	田中幹二	所属	周産母子センター
6. 研究の意義	前置胎盤は分娩時に大量出血を生じる妊娠異常のひとつです。帝王切開術や子宮内容除去術などの既往子宮手術後における前置胎盤例では、胎盤が筋層に強固に付着する「癒着胎盤」の合併に注意が必要です。「前置癒着胎盤」症例は、(1)子宮全摘出術、もしくは(2)胎盤を残した状態での子宮温存(保存療法)の2つに分類されます。次回妊娠の希望が強い場合には「胎盤を残置する子宮温存」が理想的ですが、産褥期における感染や異常性器出血などの合併症も指摘されています。この「胎盤残置例」については症例報告が主で、我が国において多数例を用いた予後解析は行われていません。よって前置癒着胎盤の周産期管理の実態ならびに前置癒着胎盤症例のうち「胎盤残置例」の予後を明らかにすることは、今後の前置癒着胎盤の治療方針決定に一定の指針を与えることが期待されます。			
7. 研究の目的	治療方針に難渋する前置癒着胎盤の治療方針に一定の指針を出すことが目的です。			
8. 研究の方法 (使用する資料等)	本研究の対象患者さんに対して「説明文書」を用いて研究の説明を行い、「同意書」を用いて自由意志による同意を頂きます。一次調査では全国周産期医療連絡協議会の前置癒着胎盤の症例数に関するアンケート調査に回答します。二次調査では当院で管理を行った「胎盤を残置する子宮温存」例に関する臨床情報収集に回答します。			
9. 個人情報の保護	利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。			
10. 利益相反に関する状況	開示すべき利益相反はありません。			
11. 問い合わせ先	弘前大学大学院医学研究科 産科婦人科学講座			
	電話	0172 - 39 - 5107	FAX	0172 - 37 - 6842